

高大連携による建築史と環境工学を横断した探究的学びの実践

－ 志摩の気候風土と住まい学習事業－

愛知産業大学 造形学部 建築学科 竹内 孝治

地域における住まいを考える総合学習

三重県の志摩半島南部に位置する志摩市と三重県建築士会志摩支部による「志摩市市民提案型協働事業」として実施された「志摩の気候風土と住まいづくり学習事業」が令和4年4月から翌令和5年2月にかけて実施された。

この協働事業では、三重県建築士会志摩支部から研究委託を受けた愛知産業大学造形学部建築学科による企画・運営のもと、地元工業高校である三重県立伊勢工業高等学校との高大連携によって探究学習が行われた。

文理横断的・探究的な学びの実施

志摩市内には今も古い木造住宅が数多く存在し、志摩の原風景ともいえる景観を形成している。これら住宅群に耐震性はもちろん、地域の気候風土にあわせた省エネ性能を付与し、次世代へ継承すべき大切な財産として有効活用していくことが求められる。

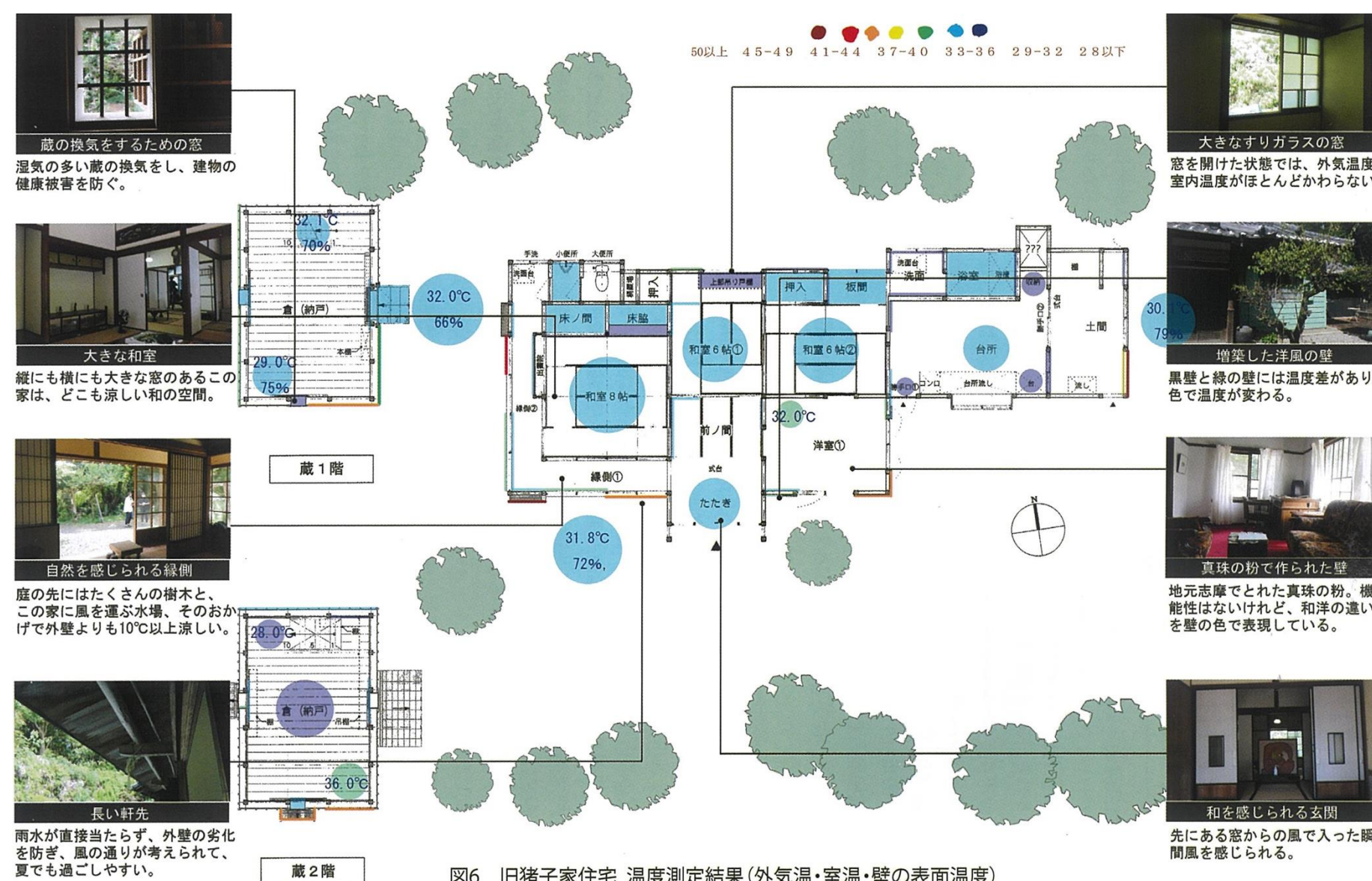
この高大連携による学習事業では、市内に残る伝統的な古民家や、気候風土に配慮した現代住宅を対象に、その歴史的価値を学ぶとともに、温熱環境調査を実施することで、文理横断的な探究学習を進めた。

遠隔授業・サポートによる高度な専門教科指導

本学習事業は、新型コロナウイルス感染症への対応が強く求められた時期での実施となり、自ずと3密を回避した対面実施、あるいはオンラインでの遠隔対応で進めるがことになった。結果的に、大学と高校が離れた場所にありながらも、オンラインによる学習会、発表会、報告書指導等のサポートを行うなど、密なやりとりが可能となり、近隣に建築を専門とする建築学科がない高校においても、大学による専門的な学習・指導を実現した。

専門学校と大学の連携による高大接続の強化

高大連携による学習事業を展開するにあたって、大学側メンバーは教員・学部生・大学院生で構成された。そのなかには、伊勢工業高校出身の学部生・大学院生も参加しており、高校生徒にとっては、実際に大学・大学院で建築を学ぶ身近なロールモデルとして立ち現れることとなった。大学での学びに触れる機会としてだけでなく、生徒自身の将来を考える契機としても、本学習事業の意義を見いだせる。



古民家調査の調査結果 (伊勢工業高等学校調査報告書より)



古民家調査風景



季候風土適応住宅見学会



成果物として作成した読み物



高校で制作した調査報告書

学習事業の概要

学習会「聴竹居と日本の環境デザイン」(オンライン)

日時：2022年7月16日13時30分～15時30分
講義：竹内孝治(愛産大)、宇野勇治(愛産大)

古民家調査「旧猪子家住宅」と「いかだ丸太の家」を調べる

日時：2022年9月4日13時30分～16時30分
場所：旧猪子家住宅、いかだ丸太の家
①温熱環境調査 宇野勇治(愛産大)、竹内孝治(愛産大)
②建築解説
解説：六浦基晴(m5_architecte)
竹内千鶴(志摩クリエイターズオフィス)

パネル展「志摩の住まいを考える9つの章」

会期：2022年11月14日～11月24日8時30分～17時15分
場所：志摩市役所1階市民ギャラリー

発表会・研修会「志摩の気候風土と住まい」(オンライン)

日時：2022年2月4日13時30分～15時30分
①発表会 校長挨拶：奥山敦弘(伊勢工業高等学校・校長)
生徒発表：丹羽玲央菜(同校建築科建築研究部)
②研修会 講義：西村菜見子(ナミ構造設計)、竹内孝治(愛産大)

調査報告書「2022年度旧猪子家住宅」

制作：三重県立伊勢工業高等学校建築科建築研究部
発行：2023年2月23日

研究報告書「志摩の住まいを考える9つの章」

企画・編集：愛知産業大学造形学部建築学科
発行：2023年2月28日

パネル展「志摩の住まいを考える9つの章」

会期：2023年4月1日～4月26日9時30分～18時00分
場所：志摩市歴史民俗資料館